

横浜市 歴史 博物館

NEWS
1
1995・3



- ◆いんたびゆー／佐原 真
「縄紋人の目で現代を見つめたい」
- ◆収集資料の紹介[3]
佐久間象山関係資料
- ◆開園へ向けて整備すすむ
「大塚・歳勝土歴史公園(仮称)」
- ◆つくって遊んで歴史にふれる—体験学習室—
- ◆横浜市歴史博物館行事のご案内

横浜市歴史博物館は一月三十一日、開館しました。テープカットには、当日の来館者の代表二名と、本館に近い中川西小学校の六年生二名に参加していただきました。

本館は、横浜に初めて誕生した歴史博物館として、横浜という地域の特色を生かし、横浜ならではの活動を展開させることが、大きな課題だと考えています。

横浜の歴史を振り返ると、政治権力の中核になったことはありません。しかし古代には関東の入口にあつて大和朝廷と直接のつながりを持ち、中世には、幕府のあつた鎌倉や、一時、関東一円を治めていた小田原を支え、近世以後も、江戸および東京に接することによって、エネルギーを貯えてきました。伝統的に陸上、海上の交通・運



輸・交易を中心に活力ある庶民文化を開花させたといえるでしょう。

これまでの大都市の博物館はどちらかといえば、古都や城下町など、貴族や大名の政治を中心に扱ってきました。しかし日本文化はより下層の階級によって担われ、展開されたところが大きいのです。横浜市歴史博物館は、そうした点を研究し、横浜という地域から全国に、歴史の新しい情報を発信していくことが課題です。

本館の常設展示も、このような考え方に基つき、横浜に生きた人々の歴史を、原始から近・現代まで六つの展示室に分け、工夫を凝らした展示でわかりやすく解説しています。

企画展示室では三月二十五日から五月七日まで、開館記念特別展として「弥生の『いくさ』



と環濠集落―大塚・歳勝土遺跡の時代―」を催します。本館は、「大塚・歳勝土遺跡」という国指定史跡を付属地としてもつめずらしい博物館です。そこで、この遺跡を中心として、全国の同時代の遺跡・遺物を、朝鮮半島との関係にも触れながら紹介します。弥生時代は環濠集落に示されるように政治集団が発達し、相互に『いくさ』のはじまった時期でもありました。

これらの常設展・特別展には、おかげさまで予想以上の方々が来館され、開館の一月三十一日から三月末までの入館者数は四一、〇九九名に達しました。講演会・講座にも多数の方々に参加していただきました。今後とも、博物館の充実と発展のため、いろいろな御意見を賜りますようお願いいたします。

縄紋人の目で現代を見つめたい

●考古学との出会いを聞かせてください。

ほんとに小さな時から、考古学やる意志があつたんですよ。僕の母によると、幼稚園の時の遠足で、土器を見て感激したのが始まりだつていうんだけど、僕は覚えてないので分かりません。小学校の一、二年の時には土器拾って、非常に感激して、こういうことをやろうと思つてましたね。それは、大昔の物がある、何千年もたったものがここにあってことに、感激したんです。



ようね。

●最近では、歴史学を越えた分野にも関心を広げているようですが。

僕の今の一番大きな関心は、縄紋人なら縄紋人の目で現代の文明を批判する、ということなんです。だから現在のいろんな状況とか、阪神大震災にも、環境破壊の問題にも関心を持っています。縄紋時代は、人間が自然の一部として生きていた時代で、弥生時代になると、もう環境を壊し始めちゃった。だから縄紋、あるいはもっと古くから現在を見ると、現代だけで考えるのと違って、深く考えることができる、ということをお話したいんです。

無関心な人も味方に

●歴史学の魅力を訴えていく、ということですね。

今、一番考えているのは、文化財がどんどん壊されているので、文化財を少しでも残すために、今まで考古学に無関心だった



人も、味方にしなきゃいけないわけです。

ところが日本の考古学は今まで、関心のある人に対してだけ呼びかけて、例えば博物館の説明なんか、考古学に関心持っている人なら分かるけれど、そうでない人には分からないような説明を、平気ですてきたわけです。それを分かりやすくしたいし、大昔と現在の係わりも明らかにしたいんです。それから僕がいつも言う例では、佐賀県に名護屋城という史跡がある。これは秀吉の朝鮮半島侵略の拠点です。日本人にとって

太閤秀吉は英雄ですから、そこは太閤をしのぶ場となるんでしょうけれど、見方をもっと広げれば、日本は朝鮮半島をもう二度と再び侵略しない、日本と朝鮮半島との間で二度と戦争をしないと誓う場でもあるべきだ、と。そう考えると、史跡というのは決して過去のものだけではなくて、現在にも将来にも生きていますね。

ムラ全体の発掘に驚く

●横浜の歴史についてどう思いますか。

和島誠一先生という方が、都筑区の南堀貝塚で縄紋時代のムラ全体を発掘された(昭和三十年)ことは有名です。今だった

国立歴史民俗博物館副館長

佐原真 (さばらまこと)

ら、ムラ全体を掘るのはそんな無謀なことではないけれど、当時、僕はそれ聞いた時にうなりました。あのころの考古学は壘何壘分とか、堅穴住居のあとをいくつか掘る、という規模が普通でしたから。だけどそれは、ゾウの体にあたえたら、鼻の先を触るとか、しっぽをつかむとかいうもので、ゾウ全体は分からない、ということでは決断されたのでしょう。博物館隣の大塚の濠(ほり)を巡らせたムラの跡と、その墓地の歳勝土遺跡の発掘調査、保存という事業が、成し遂げられたのは、この和島さんの精神が生きていると思います。

海外の博物館も参考に

●横浜市歴史博物館は、今後どのような博物館を目指したいと考えますか。

最近知ったことなんですけど、アメリカのある歴史博物館では毎年、その年に世に出た代表的な物、話題になった物を集めているそうです。例えば、携帯電話が出たら、それを購入する、というふうな。それが何十年分があつて、それがあるだけで、たくさんの方が若い頃をなつかしみにくるそうです。これは面白いと思う。十年前にあったものだって、手に入らなくなっている時代ですから、それらを並べるだけで、何の説明がなくても、市民が自分のアルバムを見るのがとても楽しめますよ。これは日本では一つもないですから、そういう構想を生かしたらどうでしょうか。横浜は世界に開いているところですから、外国のいいところも吸収して、どこにもないような個性を出してほしいですね。

●さばらまことプロフィール●

●一九三三年大阪に生まれる。大阪外国語大学でドイツ語を学び、京都大学大学院で考古学を専攻、博士課程を修了。奈良国立文化財研究所理蔵文化財センター長を経て、一九九三年より国立歴史民俗博物館副館長。専門は日本考古学、とくに弥生文化。最近では、比較文化的観点から日本文化の特質を考え、また一般の人びとにやさしい言葉で、文化財の大切さを理解してもらおうと積極的に活動している。

●著書「騎馬民族は来なかつた」(NHKブックス)「考古学の散歩道」発掘を科学する(岩波新書)「遺跡が語る日本人のくらし」(岩波ジュニア新書)「芹の文化史」(東京大学出版)

熊倉家伝来

佐久間象山



関係資料

佐久間象山先生遺稿
 先生の遺稿は、
 士族の心を
 馬に乗る如く、
 云々

櫻賦
 有 皇國之名華鍾九陽之靈和駸列樹之
 萃尊尊輝耀枝之交々言妙色於自然煌妍茂而
 無瑕冠羣卉而特秀亘終古而不差故詠浪津於
 皇嗣命開耶於 邦媛國舅忘老於 染殿王
 孫叢感於清院既乃惠風微動沖氣淋清庶
 草始綠百鳥和鳴於君 色舒榮標葉吐芬光色
 炫耀肝鬱豐醇霞飛丹霞之晴輝散白日之景



写真4

開園へ向けて整備すすむ 「大塚・歳勝土歴史公園」 (仮称)

博物館に隣接する国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡」を保存しつつ、楽しく歴史を学びながら、自然に囲まれた広々とした野外で、のびのびと楽しく一日を過ごせる歴史公園の整備がすすめられています。

公園の面積は六・六ヘクタールで、博物館の屋上から橋をわたって行くことができます。住居や墓の遺跡を再現した施設ができあがりつつありますので紹介いたします。

平成七年度末には、遺跡部分を中心として一部開園する予定です。

大塚遺跡

大塚遺跡は、今から約二、〇〇〇年前、弥生時代中期にこの地方で稲作を始めた人々のムラの遺跡です。まわりに大きな溝をめぐらした外周六〇〇メートルに及び大規模なムラの全体が発掘され、八五軒の竪穴住居跡と十棟の高床倉庫跡などが発見されました。公園整備は現在、遺跡を約一・五メートルほどの盛土によって保護し、集落として生活していた様子を再現するため遺構の直上に、竪穴住居七棟、高床倉庫一棟、木橋、環濠(まわり)にめぐらした大きな溝を復元・再現します。



型どり遺構

発掘調査時の住居跡の構造や空間を体験できるように大塚遺跡のほぼ中央部で発見された竪穴住居跡を移動再生しました。

歳勝土遺跡

歳勝土遺跡からは、大塚遺跡で生活していた人々の多数のお墓(方形周溝墓)が発見されています。こちらも遺跡は約一・五メートルの盛土によって保護されています。遺構の直上に、方形周溝墓の発掘調査によって出土した姿、埋葬当時の姿、埋葬内部の姿を復元しました。また、大塚のムラから歳勝土の墓地までの道も表示しています。

大型地形模型

大塚・歳勝土遺跡を中心に東西九五〇メートル、南北八五〇メートルの地域内の遺跡と地形を再現したもので、縄文時代から奈良時代までのものが含まれています。

周辺の地形や遺跡の分布の様子を、模型に上って観察したり体感したりできるよになっています。

大塚・歳勝土歴史公園(仮称)計画図



▲歳勝土遺跡

横浜市歴史博物館

つくって遊んで歴史にふれる

体験学習室

体験学習室では、毎月第二または第四の土曜日と日曜日を中心に、小学生を対象にした催しものを開催しています。自分の手を使って、今まで知らなかった歴史や伝統文化に出会ってもらう企画です。

●2月11・12日【ぞうり編み】

都筑区の農家のお年寄りに講師に来ていただいて、わらで草履を編みました。前日までにやわらかくしておいたわらを使い、草履編み台に向かって二時間半、真剣な表情で編んでいきます。鼻緒を最後につけてもらい完成。自分で編んだ草履のはきごころはいかがでしょうか。素足にわらの感触が「きもちいい」の声があがっていました。

●2月25・26日【まゆ人形】

ひな祭りも近いので、繭で内裏びなを作りました。明治時代、各地から集められた生糸が横浜港から海外へ運ばれていきました。この地域でも古い農家にはいまだに蚕を飼っていた頃の名残で桑の木が残っています。神奈川県蚕業センターのご協力を得て、繭をいろいろな色に染め、組み合わせ、小さな「まゆ人形」にしました。

●3月11・12日【竹細工】

竹を削り、竹とんぼを作りました。普段ナイフを使うことのあまりない子どもたちにとって、バランスよく飛ぶ竹とんぼを作るのはちょっとおぼずかしそう。何度も確認しながら真剣に竹を削っていました。その後、出来上がった竹とんぼをもって博物館の外へ。広々としたところで、青空に向かって竹とんぼを飛ばしていました。



体験学習室では、今後も、子どもたちにいろいろな体験に挑戦してもらいます。

大塚遺跡



▲型どり遺構

▼大型地形模型



横浜市歴史博物館 行事のご案内

(1) 連続講座「横浜の歴史」

— 常設展示を中心に —

- ① 原始Ⅰ 七月七日 / ② 原始Ⅱ 七月十四日 / ③ 古代 七月二十一日 / ④ 中世 七月二十八日 / ⑤ 近世 八月四日 / ⑥ 近現代 八月十一日

■ 場所 / 横浜市歴史博物館研修室
■ 時間 / 午後二時から四時まで
■ 定員 / 各五〇名

■ 参加費 / 各三〇〇円 (資料代など)
■ 応募方法 / 往復はがきに住所・氏名・電話番号、希望講座の番号①～⑥(複数可)を明記のうえお送りください。

■ 定員を超えた場合は抽選となります。
■ 締切日 / 平成七年六月十七日(必着)

(2) ふるさと横浜探検Ⅰ 国指定史跡「三殿台遺跡」と

遺跡発掘現場の見学

■ 日時 / 七月二十五日
■ 午前九時から午後三時

■ 集合場所 / 横浜市歴史博物館

■ 定員 / 三〇名

■ 参加費 / 五〇〇円 (資料代など)

■ 応募方法 / 往復はがきに住所・氏名・電話番号「探検Ⅰ申込」と明記のうえお送りください。定員を超えた場合は抽選となります。

■ 締切日 / 平成七年七月八日(必着)

※ 申込み・お問い合わせ先

横浜市歴史博物館

〒224 横浜市都筑区中川中央1-18-1

☎ 〇四五(九一二) 七七七七(代)



今後の企画展のお知らせ

◆ 秋期特別展

「中世の世界に誘う『仏像』展
— 院派仏師の系譜と造像 —」(仮称)

一九九五年十一月～十二月(予定)

院派仏師やその系統に属する仏師による仏像彫刻を展示し、院派仏師の系譜とその作例を通して、中世の世界を展望します。

◆ 「収蔵資料展」(仮称)

一九九六年一月～二月(予定)

博物館で保管している資料を公開します。

◆ 「横浜の宿場と街道」(仮称)

一九九六年二月～三月(予定)

東海道の実態や市域におかれた宿場に関する資料を展示し、横浜における庶民の生活・文化を考えます。

横浜市歴史博物館 日誌 (95年1月31日～3月31日)

- 1月31日 開館
「灯火具のあゆみ」展開催(3月5日まで)
初めての学校見学・横浜市中川西小学校6年生105人来館
- 2月5日 2月のハイビジョンシアター
「古代のかがやき藤ノ木古墳」(土・日上映)
開館記念講演会:平野邦雄館長「博物館がめざすもの」
岡本 勇氏「都筑の大昔」
- 2月11日 来館者1万人突破
- 2月11・12日 体験学習「ぞうり編み」
- 2月25日 開館記念講座第1回:小宮恒雄氏
「横浜に生きた人々の生活の歴史—原始～古代」
- 2月25・26日 体験学習「まゆ人形」
- 3月4日 3月のハイビジョンシアター
「慶州 新羅千年の都」(土・日上映)
- 3月11・12日 体験学習「竹細工」
- 3月14日 来館者3万人突破
- 3月18日 開館記念講座第2回:下山治久氏
「横浜に生きた人々の生活の歴史—中世～近世」
- 3月25日 開館記念特別展「弥生の“いくさ”と環濠集落—大塚・歳勝土遺跡の時代—」
開催(5月7日まで)
- 3月26日 開館記念特別展関連講演会
佐原 真氏「人類史における戦争のはじまり」

ミュージアムショップ



ミニタオル

大人から子供まで幅広い層の人気を持つ、博物館オリジナルミニタオル。ハンカチにはない吸水性、なのにかさばらず、ポケットにもらくらく入る大きさ。色も12色と豊富で、かわいいキャラクターの刺繍入り。値段も三八〇円とお手頃です。

グッズ紹介

横浜市歴史博物館の利用案内

● 開館時間

午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)

● 休館日

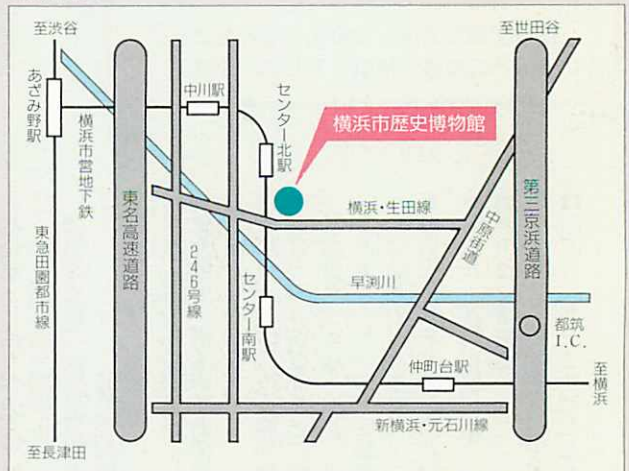
月曜日、祝日の翌日、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

● 観覧料

区分	個人	団体 (20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆ 特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆ 第2・第4土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆ 「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

● 案内図



(交通機関) 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分

編集後記

「自分の生まれ育つたまちの名を展示の中に見つけるとうれいすね」という感想をよくいただきます。横浜に生きた人々の生活の歴史が、博物館のテーマです。ぜひ一度来館され、歴史を身近に感じてみませんか。